

# 令和3年度沖縄県全島緑化県民運動ポスター原画コンクール 審査講評

## 【審査員長 総評】

仲里 安広 審査委員（県立那覇高等学校 美術教諭）

はじめに、今年も多くの応募があったことで、様々な作品を見比べながら審査が出来たことが良かったと思います。

昨年に引き続き審査を行いました。小・中・高の作品の中の表現方法は、技術面もですが、学年が上がると絵の深みなども出てくるなど、違いを感じることができました。

小学生の部では、生き生きと描かれ、絵から緑化に対する意識の高さが伝わりました。

中学生の部では、指導も専門の先生から教わることで、更に技術力が上がることで表現の幅が広がり、沖縄を意識した作など、内容面で多様性が感じられました。

そして、作品によってはアニメや漫画の影響が画風に出してしまうのは避けることは出来ないのですが、評価については審査の仕方を検討する余地があることだと感じました。

高校生の部では、技術力や表現力の高さが感じられました。

最後に、本来であれば、小学生から高校生の全員が、力を尽くして絵を描いているので全員に賞を上げたいと思う気持ちです。受賞した皆さんや惜しくも入選できなかった方にも、今後とも頑張ってお絵に取組んで貰いたいと思います。

## 【小学生の部 講評】

豊田 達雄 審査委員（うるま市立田場小学校 教頭）

「造っていこう みんなの町を 緑いっぱい的美ら島に」のテーマのもと、多数の応募がありましたが、全ての作品に共通して感じられたのが地元の自然が大好きで大切にしたいという思いです。

皆、構図や彩色を工夫していい作品ばかりでしたが、ポスターの審査ということで訴えたいことがよくわかり、より人目を引きつける作品を選ばせていただきました。

最優秀の砂川うたさんの作品は、豊かな自然の恵みに感謝して未来へ繋げたいという思いを身近な緑に昆虫を添えた盛り花ふうの図柄で表現されており、命・自然の愛おしさが感じられました。

優秀賞の鈴木康平さんは生き物の表現が巧みで、自然を大切にしたいという思いに溢れていました。

同じく優秀賞の宮里ゆうさんは地元の福木並木と掃除をするおばあちゃんを描いていますが、生活を守ってくれている福木への感謝が表現されており、印象に残る作品でした。

多くの県民が皆さんの作品を目にすることで、身近な緑や環境保護等への意識が高まることを切に願います。

## 【中学生の部 講評】

池原 盛浩 審査委員（沖縄県造形教育連盟）

今年度中学生の応募は、県内各地の中学校19校より84点の応募がありました。「造っていこう みんなの町を 緑いっぱい的美ら島に」の応募テーマをしっかり捉えたタイトルと制作意図、そして人に伝えることを目的としたポスター表現として工夫された作品が数多くありました。

最優秀賞の宮平桜妃さんの作品は、長い年月をかけ成長したガジュマルの前で行われている新芽の植え付けを、ヤンバルクイナの親子が優しく見守っている姿が描かれています。動植物の命のバトンの意味が込められ、沖縄における本緑化運動の広がりにもふさわしい作品です。

同じく最優秀賞の鷹谷美幸さんの作品は、青系の横縞で色分けされた背景に紺色ですくっと伸びた幹が力強く表現され、スタンプングで表した葉の表現等モダンテクニックのみで描かれ、他とは異なる描き方が印象的でした。

本コンクールへの応募を通して、植物への関心とともに、郷土を愛する心情も持ったことと思います。次年度も多くの方の応募があることを願います。

## 【高校生の部 講評】

仲里 安広 審査委員（県立那覇高等学校 美術教諭）

昨年より応募者が倍近く増え、緑化に対する意識の高さが感じられました。

近年SDGsへの意識が高まり、環境問題と対峙する機会が多くなりました。正しく緑化運動もその一つで、未来を見据えたこの活動への思いがポスター表現にも表れていたと思います。

高校生の部において最優秀賞に輝いた嘉数美咲さんの作品は、可憐に咲いた花畑の森の中、花と戯れる少女がきらびやかに描かれていました。大樹と人物とのコントラストが効果的で、緑化の魅力が表現された力作として審査員の目を捉えました。優秀賞の垣花優那さんの作品はガジュマルの力強さが表現され生き生きとした作品でした。

同賞の前原芽衣さんの作品は柔らかな色調で、森と動物との共存をテーマとしたロマンチックな作品で、情緒あふれる作品でした。

また、田里香夏さんの作品は植物の中に人物をトリック効果として描き、ユーモラスの中に植物への愛情を感じさせる作品でした。

次年度も緑化運動を高めるような魅力的な作品を期待しています。